

森のちやれんがニュース

2016 春

Across Borders:

Naoki Ishikawa

In Celebration of Sister Relations
between Alberta and Hokkaido

HOKKAIDO MUSEUM



「Across Borders: 石川直樹写真展」開催！

2015 (平成 27) 年 11 月 28 日 (土) から 2016 年 1 月 17 日 (日) にかけて、北海道とカナダ・アルバータ州の姉妹提携 35 周年記念事業「Across Borders: 石川直樹写真展」が開催されました。

石川直樹氏は冒険家・写真家として幅広く活躍し、未知の世界を旅するなかで出会った景色や人びとの暮らしを紹介しています。今回の写真展では石川氏が北海道とアルバータ州で撮影した写真 41 枚が展示されました。写真展のオープンのあたって、石川氏ご本人によるミュージアムトークが開催され、多くの方が冒険談に聞き入っていました。アルバータ州の

風景には、雪原や直線的な道路のように北海道と似ているところも多いのですが、はるかに広大で乾燥した気候のようです。北海道のアイヌ民族の儀礼や、アルバータ州南部の先住民の聖地に描かれた壁画など、普段は見ることのできない写真の数々は話題となり、4,390 人の方にご観覧いただきました。

この写真展は、ロイヤル・アルバータ・ミュージアム、北海道博物館を巡回し、4 月 5 日までカナダ大使館高円宮記念ギャラリー（東京都港区）で開催されています。

CONTENTS

- ② 第3回企画テーマ展
「北海道のアンモナイトとその魅力」を振り返って
- ③ 学芸職員が語る総合展示の見どころ④
「北海道らしさの秘密」の秘密
- ④ 学芸職員が語る総合展示の見どころ⑤
「いまとこれからを創る」を創る
- ⑤ 学芸職員が語る総合展示の見どころ⑥
生き物の世界を楽しく知ろう! 「生き物たちの北海道」
- ⑥ 施設 「図書室」へようこそ
- ⑦ イベント紹介
「ちやれんが子どもクラブ「アイヌ語であそぼう!」
- ⑧ 行事のおしらせ/活動ダイアリー



トピックス

第3回企画テーマ展

「北海道のアンモナイトとその魅力」を振り返って

第3回企画テーマ展「北海道のアンモナイトとその魅力」(2015年11月28日～2016年1月17日)では、北海道博物館の収蔵資料と、アンモナイト愛好家(北海道化石会、千歳化石会、版画家の福岡幸一氏)の皆様からお借りした、自慢のアンモナイトコレクション約300点を一堂に展示して、北海道のアンモナイトが持つさまざまな“魅力”を紹介しました。博物館に勤めて3年目にして、初めて展示会を担当しました。

たくさんの種類があること、見た目がきれいなこと、太古の世界にロマンを感じることなど、アンモナイトには魅力がたくさんあります。今回はこれらの魅力に加えて、アンモナイトをより魅力的に感じてもらえるように、普段の博物館の展示では見ることができない、野外でアンモナイトを探すところから展示されるまでの道のりを紹介することにしました。特にアンモナイト採集現場の再現はこだわったポイントです。実は、採集に使う道具やマネキンが身に着けている服は、北海道化石会会員が普段使っているものをお借りしてきたものです。また、背景にアンモナイト採集現場の写真を大きく設置することで、奥行きをつくりました。観覧者からは「臨場感があってよい!」、「アンモナイトはこんなところで見つかるなんて初めて知りました〜」などのお声をいただきました。さらに、今回の展示会では、こどもたちが楽しみながらアンモナイトについて知ることができるよう、クイズシート(正解したらアンモくんスタンプを押してもらえる)を用意しました。答えを探して、展示場をまわる子どもたちの賑やかな声が響きました。

今回はアンモナイトの魅力をどのように伝えるか、試行錯誤の連続でした。しかしアンモナイト愛好家からのアドバイ



展示場の様子



アンモナイト採集の様子を展示したコーナー

スもあり、悩みつつも楽しみながら展示をつくることができました。今後、展示会に携わるときには、より多くの方に楽しんでいただけるよう、この経験を活か

し工夫を重ねていきます。

圓谷昂史
(研究部自然研究グループ研究職員)

展示

学芸職員が語る総合展示の見どころ④ 「北海道らしさの秘密」の秘密

第3テーマ「北海道らしさの秘密」は、北海道独特の景観、海や大地の資源を活かし育ってきた数々のモノづくり、多雪寒冷な気候に適応しようと模索した生活スタイルなど、さまざまな北海道らしさが生成されてきた過程や背景を、産業や暮らしなどの歩みをたどりながら振り返るというものです。

歴史に裏づけられた北海道の魅力とアイデンティティを再発見し、よりよい未来の暮らし、未来の北海道をみんなで対話しながら考え、探していくコーナーとして、ご利用いただければ幸いです。

ところで、すでにお気づきの方もいらっしゃるかと思います。この第3テーマに隠されている2つの秘密について、今回は紹介します。

秘密① サウンドクロック

第3テーマでは、毎日10時から16時までの間、1時間おきにどこかで北海道らしい音が流れ、来館者のみなさまに時刻を



サウンドクロックのスピーカー

お知らせしています。1日のプログラムは次のとおりです。

10時	エゾアカガエルの鳴き声
11時	ニシン沖あげ音頭
12時	松前神楽のお囃子
13時	エゾハルゼミの鳴き声
14時	冬の妖精が過ぎ去る音
15時	クマよけラッパの音色
16時	七夕の子ども行列の囃し唄

ぜひ、聞きたい音の時間にあわせて、第3テーマにお越しください。

秘密② 馬が見つめているものは？

「自然の恵みとともに」のコーナーでは、大型の農耕馬がプラウを牽いて畑を耕しているジオラマがあります。でも、なにかはっと気づいたようで、前進することをためらっているように見えなくもありません。

実は、馬の視線の遠く先にあるのは、第5テーマ「生き物たちの北海道」のヒグマをかたどった入口です。この馬はこのヒグマを見てしまったので、進むのを躊躇しているのかもしれません。昔の開拓地では、そんな出来事もあったのかなあ、など思いをめぐらせていただければ幸いです。

池田貴夫

(研究部生活文化研究グループ学芸主幹)



馬がプラウを牽いているジオラマ



第5テーマの入口はヒグマの形

展示

学芸職員が語る総合展示の見どころ⑤ 「いまとこれからを創る」を創る

第4テーマ「わたしたちの時代へ」の展示は、20世紀からの歴史をたどってきて、現在に到着します。でも、本当はそこで終わりではありません。「いま」はいつも新しいものですし、「いま」の先には未来があります。

テーマの最後に何を置こうか話し合っ、て、「いまとこれからを創る」というコーナーを作りました。北海道のあちこちで未来を切り開くような挑戦をしている人を紹介しようというものです。できるだけ具体的に、試行錯誤している個人が感じられるように。踏み込んで記せば、展示に向き合う人にも「そして、あなたは？」とどこかで問いかけるように。「いま」と「これから」がどんなものになるかは、現在を生きる人自身にかかっているのだから。

ここは展示替えがしやすい作りになりました。更新をして新しい「いま」をお届けします。貼り替え式の展示パネル一枚につき一つ的话题を取り上げます。品物を展示したいときのために小さな可動式ケースも用意しました。

オープン時に登場してもらったのは、1993年に起きた北海道南西沖地震の記憶を語り継ぐ奥尻島での活動、帯広市でアイヌの子どもたちに勉強を教えてきた「とかちエテケカンパの会」の活動、そして、増えすぎが問題になっているエゾシカを有効活用するいくつかの試み、の三つです。

ここは、第5テーマ「生き物たちの北海道」の出入り口に面してもいます。現在の北海道が直面するたくさんの課題のなかでも、自然環境とどう付き合うかは重要との考えから、今後の展示入れ替えの際には自然環境に関する話題を必ず入れることにしています。

その他にどんな話題を取り上げるのかは、第4テーマを担当した職員だけではなく、館内で広く議論をしていきます。それぞれの活動の当事者ご自身や、その地域の博物館学芸員に報告者になってもら



右に掲げた写真は、母に抱かれた小さな子の手

うことも目指したい考えです。可変的に作ったこのコーナーにいまどんな展示をしているか自体が、私たちの挑戦を現在進

行形で示しているのかもしれませんが。

山田伸一

(研究部歴史研究グループ学芸主査)



札幌市の高瀬季里子さんがエゾシカ革で作った製品を展示中

展示

学芸職員が語る総合展示の見どころ⑥

生き物の世界を楽しく知ろう！「生き物たちの北海道」

第5テーマ「生き物たちの北海道」は、文字どおり北海道の生物が主役。特に、「生き物同士のつながり」をメインテーマとしました。単に「こんな生き物があります」と示すだけではなく、それぞれの関係性や、生態系全体の紹介に、フォーカスを当てているのです。

展示室には北海道に自生するシルエットの木々が立ち並び、ヒグマやユキウサギ、エゾリスから小さな昆虫やカタツムリまで、さまざまな動物が隠れています。「森林」「海岸」など代表的な環境をデザイン的に表し、そこにそれぞれの生態系を表現したものです。エリアごとに「どんぐりからつながる」「落ち葉からつながる」「サケが森と海をつなぐ」などのテーマを設定し、それぞれの中で、つながりがわかりやすい生き物を展示しています。例えば「どんぐりからつながる」では、ミズナラの堅果(どんぐり)を食べる動物を、ヒグマやオシドリ、カケス、シマリス、アカネズミに至るまで展示し、それぞれの関係やその間で起こるドラマを表現しています。

入口のゲートが、ある動物の形をしているのにお気づきでしょうか。これには、人間の視点から離れ、動物になったつもりで展示を見ていただきたい、という願いを込めています。ほかに



意外に重たい？ サケのぬいぐるみ

も、ただ見るだけではなく、めくったり、回したり、トンネルをくぐったり。自分で働きかけて、生き物を見つけたり、楽しみながら生き物のつながりを体感できる仕掛けがあちこちにあります。動物型のソファや、重さまで実物どおりに再現したサケのぬいぐるみ、いろいろな動物とどんぐりのつながりを実感できる装置「どんぐりコロコロ」など、小さなお子さんが楽しめる展示物もたくさん用意しました。

解説パネルはできるだけ減らし、そのかわりに知りたいことを自分で調べられる解説端末を導入しました。名づけて「生き物つながりナビ」。タッチパネルで生き物のつながりをどんどんたどっていけば、生き物博士になれるかも？

どうぞ、親子で楽しく、生き物の世界をのぞいてみてください。

水島末記

(研究部自然研究グループ学芸主幹)



生き物のつながりを楽しく学ぼう！



シャチのソファで記念撮影！

施設

「図書室」へようこそ

「博物館の図書室」と聞くと、皆さんのなかには、「なぜ博物館に図書室があるの？」と不思議に思う方がいるかも知れません。実は北海道博物館の図書室は、職員が研究をするための図書室、お客さまがご自身の関心があることについて調べ物をするための図書室、2つの役割を担っています。

では、図書室にはどのような本があるのでしょうか。最も多いのが、国内の博物館が発行した展示会の図録（展示解説書）や論文集です。道内の博物館の本は、北海道の地域研究の宝庫ですし、道外の博物館の本は、私たちに北海道の独自性や、本州からの移住者によりもたらされた文化のルーツを教えてください。次に多いのが、アイヌ民族の歴史や文化を知るための本です。アイヌ民

族に関する一般的な本だけでなく、国内で活動するさまざまな団体が発行したニュースレターもご覧いただくことができます。

図書室を利用されるお客様の目的は、学校の壁新聞でアイヌ民族を特集する、昔の家具のデザインを工業デザインの参考にしたい、肖像写真に写る制服を手がかりに先祖の職業を調べたいなど、本当に様々です。皆さんも知りたいことがあったら、カウンターの職員に聞いてみてください。図書室の本だけでなく、書庫の本や収蔵庫にある18万点の資料の情報を駆使し、ときにはその分野の学芸員や研究職員が対応しながら、できる限りのお手伝いをさせていただきます。

4月10日（日）までは、企画テーマ展「神様おねがい！ー地域と人をむすぶ

祈りのかたちー」に関連して、全国の博物館が発行した、神様をテーマとした展示会の図録を一堂に展示します。現在蔵書は整理中のものが多く、お客さまへのサービスという面ではまだまだ発展途上の図書室ではありますが、皆さんのご利用をお待ちしております。

※図書室は総合展示室の地下にあり、総合展示室をご覧になる方は、自由にご利用いただけます。

※図書室のみのご利用もできます。

この場合は、1階総合展示室前の総合案内へお声掛けください。

櫻井万里子

（学芸部博物館研究グループ主任）



図書室(閲覧スペース)

まちの図書館や書店ではなかなか見かけない、珍しい本との出会いがあります



書庫(非公開)の内部

通路は、人ひとり通るのがやっとです。天井から床まで本がぎっしり！

アイヌ民族文化研究センターだより

イベント紹介

ちゃれんが子どもクラブ「アイヌ語であそぼう！」

総合展示第2テーマ「アイヌ文化の世界」には、色の異なる4つのブロックをいろいろ組み合わせて、遊びながらアイヌ語が学べる「アイヌ語ブロック」を設けています。今回の北海道博物館の展示リニューアルに合わせて、新たに製作したものです。



アイヌ語ブロック

開館以来、有り難いことに、小さなお子さまから若いカップルまで、多くの方に「アイヌ語ブロック」を手にとっていたり、展示室には、ブロックを動かすゴトゴトという音が響いています。また、お客様からのリクエストでも「アイヌ語について知りたい」「アイヌ語の単語をもっと知りたい」といった声を、たくさんいただいています。当研究センターとしても、アイヌ語に関する講座などを充実させたいと考えました。とはいえ、いきなり文法や発音のレッスンでは教える側も学ぶ側もシンドイかも…。そこで、大人向けにはアイヌ語の物語をいとぐちとした「アイヌ語“解説”講座」を開催（昨年10月に実施）。そして1月16日（土）に、子ども向けの講座として、この「アイヌ語ブロック」を使った「アイヌ語であそぼう!」を企画しました。

講座では、まず日本語をアイヌ語にしたり、アイヌ語を日本語にしたりするクイズを出題。参加者に発砲スチロール製の「アイヌ語ブロック」を配り、ブロックを使ってクイズに答えていただくかたちで進めまし



講座のようす「えーと、ブロックを、こう動かして…」

た。一人ひとりと答え合わせを行いながら、アイヌ語の発音を指導したり、文法の基本的なところを説明したりするようにしました。

当日は、5歳から10歳ぐらいまでの4名が、親子で参加して下さいました。皆さん、親子で知恵をしばりつつ、さいごのところはお子さまが自分で一生懸命考えて、みごと全員すべてのクイズをクリアしました。答え合わせをするごとに発音も上手になり、日本語との文法的な違いも感覚的に理解してくれたのは、私たちにとっても嬉しいことでした。

最後に一人ひとりに講座の修了証書を授与。どの子も素敵な笑顔を見せていました。

「アイヌ語であそぼう!」は来年度も開催したいと考えています。また研究センターでは、道内各地で「アイヌ文化巡回展」を開催すべく準備を進めています。この巡回展でも「アイヌ語であそぼう!」のようなイベントや講座などを企画しております。当館で、また道内のいろいろなところ

で、ご参加いただけたら幸いです。



吉田副館長から修了証書を授与

田村雅史

(アイヌ民族文化研究センター研究職員)

行事のおしらせ

4～6月

展示会

第4回企画テーマ展

神様おねがい!

ー地域と人をむすぶ祈りのかたちー

2月27日(土)～2016年4月10日(日)

特別展示室・無料



円空仏(複製)

原資料:上ノ国町教育委員会

第5回企画テーマ展

アイヌ民族資料を守り伝える力

4月28日(木)～6月5日(日)

特別展示室・無料

行事の申し込みは、お電話(011-898-0500)でお願いします。
行事の詳細についてはウェブサイトでもご覧いただけます。

イベント

ちゃれんがワークショップ

自然観察会① エゾアカガエルのラブコールを聴こう

日時/4月16日(土) 10:00～12:00

会場/野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)

担当/堀繁久・水島未記・表溪太(北海道博物館)

対象/小学生～大人(40名、事前申込3月17日(木)

から受付)・無料

特別イベント

特別展「ジオパークへ行こう!」の展示をみんなでつくろう!

日時/5月3日(火)～5日(木) 10:00～16:30

会場/講堂

担当/栗原憲一・添田雄二・圓谷昂史・表溪太

対象/どなたでも(定員なし、申込不要)・無料

ちゃれんがワークショップ

いろいろな鳥笛をつくろう

日時/5月21日(土) 10:30～12:30

会場/講堂

担当/表溪太・水島未記

対象/小学生～大人(30名、事前申込4月22日(金)

から受付)・無料

ちゃれんがワークショップ

自然観察会② デジカメで自然観察!

日時/6月11日(土) 10:00～12:00

会場/野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)

担当/堀繁久・水島未記・表溪太(北海道博物館)

濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)

対象/小学生～大人(40名、事前申込5月12日(木)

から受付)・無料

ちゃれんがワークショップ

縄文土器をつくる(全2回)

日時・会場/

①つくる 6月12日(日) 10:30～15:30 講堂

②焼く 6月26日(日) 10:00～15:00 江別市セラミック

アートセンター

担当/右代啓視・鈴木琢也

対象/小学生～大人(40名、事前申込5月13日(金)

から受付)・無料

はっけんイベント

羊毛でふわふわ織物に挑戦

日時/4月2日(土)～6月19日(日)の土曜日・日曜日・

祝日開館日

会場/はっけん広場

対象/どなたでも(申込不要)・無料

活動ダイアリー

12～2月

- 12月4日 「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト(大津波プロジェクト)によるワークショップ事業」開催
- 12月6日 ちゃれんがワークショップ「手漉き和紙でオリジナル年賀状をつくろう」開催
- 12月12日 「こそだてフェスティバル2015」(札幌コンベンションセンターSORA)に出席
ちゃれんが子どもクラブ「アンモナイトを解剖しよう」開催
- 12月13日 ちゃれんがワークショップ「アンモナイト折り紙で学ぶ生物の「かたち」の不思議」開催
- 12月19日 ちゃれんが講座「アンモナイトとアオイガイ」開催
- 12月20日 ちゃれんがワークショップ「博物館で新年祈願! 日本の画材で絵馬づくり」開催
- 1月9日 ちゃれんが子どもクラブ「いのりのしるし? 絵馬づくりに挑戦」開催
ちゃれんが講座④「館長×学芸員トーク「北海道のアンモナイトとその魅力」展のみどころ」をちゃれんが庁舎で開催

- 1月16日 ちゃれんが子どもクラブ「アイヌ語であそぼう!」開催
- 1月17日 ちゃれんがワークショップ「古文書講座① はじめての古文書(第1回)」開催
- 1月30日 ちゃれんがリレー講座(第1回)「樺太アイヌの『罨』を徹底的に解剖しよう」開催
- 1月31日 ちゃれんがワークショップ「古文書講座① はじめての古文書(第2回)」開催
- 2月13日 ちゃれんがリレー講座(第2回)「サハリン・アムール地域の自然と先住民の植物利用」開催
- 2月14日 ちゃれんがワークショップ「古文書講座① はじめての古文書(第3回)」開催
- 2月20日 研究会「グローバルな視点から地域を伝えるミュージアム」開催
- 2月21日 ちゃれんがワークショップ「古文書講座② 古文書に親しもう(第1回)」開催
- 2月27日 ちゃれんがワークショップ「自然観察会⑥ 動物の足あとをさがそう」開催
ちゃれんがリレー講座(第3回)「北海道の「らしさ」を考える」開催

来館者数

11～1月: 15,434人

累計: 142,554人(2015年4月～2016年1月末現在)

森のちゃれんがニュース 第3号

発行日: 2016年3月1日

編集・発行: 北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

Tel.(011)898-0456 Fax.(011)898-2657

ウェブサイト <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

©Hokkaido Museum, 2016